

# 小論文

医学部（医学科）

## 注意事項

1. 「解答始め」の合図があるまでこの冊子は開かないこと。
2. この冊子は表紙を除き7ページである。
3. 「解答始め」の合図があつたら、まず、掲示又は板書してある問題冊子ページ数・解答用紙枚数・下書き用紙枚数が、自分に配付された数と合っているか確認し、もし数が合わない場合は手を高く挙げ申し出ること。次に、受験番号・氏名を必ずすべての解答用紙の指定された箇所に記入してから、解答を始めること。
4. 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に横書きで記入すること。

次の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。

### ▶利他ぎらいが考える利他

「利他」とはなにか。

利他について研究を始めたとき、私は実は利他主義という立場にかなり懐疑的な考えを持っていました。懐疑を乗り越えて、むしろ「利他ぎらい」といっていいほどでした。

私はこれまで、目の見えない人や吃音<sup>きつおん</sup>の人、四肢切断した人など、さまざまな障害を持っている人が、どのように世界を認識し、その体をどのように使いこなすのかを調査してきました。

理由は追って説明しますが、障害のある人と関わるなかで、利他的な精神や行動が、むしろ「壁」になっているような場面に、数多く遭遇してきたからです。「困っている人のために」という周囲の思いが、結果として全然本人のためになっていない。利他は利他的ではないのではないか？ そんな敵意のような警戒心を抱くようになっていたのです。

でも、だからこそ思いました。利他のことを正面から考えてみたい、と。なんてあまのじゃくなんだ、と思われるかもしれませんが。けれども研究者というのは、得てして本人にとってよく分からないもの、苦手なものを研究対象とするものなのです。

そして、実は多くの人が、「利他という言葉は聞くけれどその実態はよく分からない」と感じているのではないかと思います。

キリスト教の「隣人愛」や、浄土真宗の「他力」など、利他の考え方は伝統的に宗教的な価値観と密接に結びついていました。こうした背景を理解することは重要ですが、現代における利他という言葉は、しばしば宗教的な文脈とは切り離されて流布するようになっていきます。その結果、「利他」の輪郭もかなり曖昧なものになっているように思います。

たとえば、利他というと自己を犠牲にするイメージがあります。利他的な社会とは、お互いにちょっとずつ我慢しなければならないような社会なのでしょうか？

あるいは、共感の問題。利他と共感の関係は、利他をめぐる古典的な争点のひとつ

ですが、利他に共感が必要だとしたら、共感できる人にだけ利他的に振る舞い、共感できない人に対しては、利他的に振る舞わなくてもよいのでしょうか？

こうした疑問を念頭に置きつつ、ここでは、現代社会が置かれた状況にフォーカスを合わせながら、これまでの研究プロジェクトを通してみえてきた「利他のかたち」について、お話ししてみたいと思います。

## ▶利他は自分のためになる？——合理的利他主義

まず、経済学者ジャック・アタリの利他主義について考えていきましょう。

アタリは、以前からパンデミックを予想し、地球に迫る危機について警鐘を鳴らしてきました。そのなかで、彼は地球を救うために必要な利他主義の重要性を強く主張してきました。

アタリの利他主義の特徴は、その「合理性」です。<sup>くだん</sup>件のNHKの番組でも、アタリはこう語っています。

利他主義とは、合理的な利己主義にほかなりません。みずからが感染の脅威にさらされないためには、他人の感染を確実に防ぐ必要があります。利他的であることは、ひいては自分の利益になるのです。またほかの国々が感染していないことも自国の利益になります。たとえば日本の場合も、世界の国々が栄えていれば市場が拡大し、長期的にみると国益にもつながりますよね。

合理的利他主義の特徴は、「自分にとっての利益」を行為の動機にしているところです。他者に利することが、結果として自分に利することになる。日本にも「情けは人のためならず」ということわざがありますが、他人のためにしたことの恩恵が、めぐりめぐって自分のところにかえてくる、という発想ですね。自分のためになるのだから、アタリの言うように、利他主義は利己主義にとって合理的な戦略なのです。

こうした考え方は、いうまでもなく、利他主義は利己主義の対義語である、という伝統的な考え方を意図的に転倒させたものです。

「利他主義 Altruism」という言葉は、フランスのオーギュスト・コントによっ

て、19世紀半ばに提唱されるようになった、比較的新しい造語です。「altrui」とは古フランス語で「他者」のこと。元になったラテン語は「alter」ですから、これは「オルタナティブ（別の、ほかの）」という言葉イメージすると分かりやすいですね。

コントが利他主義と言ったとき、この言葉は「利己主義 Egoism」に対置される言葉として想定されていました。コントにとって利他主義とは「他者のために生きる」こと、つまり自己犠牲を指していたのです。

こうしたコントの考え方からすると、合理的利他主義の考え方は、まさに「ルーツをひっくりかえす」発想であるといえます。これをどう考えるかについては、またあとで述べたいと思います。いずれにせよ、合理的利他主義は、現代の利他をめぐる主要な考え方のひとつとなっています。

### ▶私にできる最大の善——効果的利他主義

利益を動機とするという点で合理的利他主義の特徴をさらに推し進めたのが、効果的利他主義です。効果的利他主義の考え方は、日本人の感覚からするとちょっとギョッとしてしまうところもあるのですが、2000年代半ばごろから、英語圏を中心とする若者エリート層のあいだでかなりの広がりを見せています。

効果的利他主義の理論的支柱となっているのは、哲学者のピーター・シンガーです。彼は、効果的利他主義の原則を、端的にこう述べています。

効果的な利他主義は、非常にシンプルな考え方から生まれています。「私たちは、自分にできる〈いちばんたくさんのいいこと〉をしなければならない」という考え方です。

（『あなたが世界のためにできるたったひとつのこと——〈効果的な利他主義〉のすすめ』）

自分にできる〈いちばんたくさんのいいこと〉。ポイントは、「いちばんたくさんの」というところにあります。最大多数の最大幸福。つまりこれは「功利主義」の考え方です。

効果的利他主義は、単に功利主義をとるにとどまらず、幸福を徹底的に数値化します。たとえば自分の財産から1000ドルを寄付しようとする場合、それをどの団体に、どのような名目で寄付をすると、もっとも多くの善をもたらすことができるのか。得られる善を事前に評価し、それが最大になるところに寄付の対象を定めることによって、効率よく利他を行おうとするのです。

シンガールの本から具体的な例を引いてみましょう。アメリカで盲導犬を1頭養成するのに必要な金額は4万ドルである、という数字があげられています。これは発展途上国でトラコーマという目の病気を400人から2000人治療できる金額に相当します。ならば、アメリカ国内での盲導犬の養成よりも、発展途上国での治療のためにお金を払ったほうが、より多くの目の悪い人を助けることができる。つまり「より多くのいいこと」ができるので、発展途上国のトラコーマ治療のために寄付をしたほうが効果的である、と判断されることになります。

#### ▶共感を否定する「数字による利他」

効果的利他主義は、なぜここまで数値化にこだわるのか。それは、利他の原理を「共感」にしないためです。

最近親戚ががんで亡くなったから、がん治療の研究をしている組織に寄付しよう。

職場に視覚障害者がいるから、盲導犬の育成を行っている団体に寄付しよう。

こんなふうに考えるのが、共感にもとづく利他だ、と彼らは言います。日本風にいえば、「ご縁」があったもの、精神的物理的に近いものに対して、施しをしようとする。

ところが、効果的利他主義は、こうした共感にもとづく利他を否定します。共感にもとづいて行動してしまうと、ふだん出会うことのない遠い国の人や、そもそもその存在を意識していない問題にアプローチできないからです。

もちろん、だからといって、効果的利他主義者も共感そのものを否定するわけではありません。しかし、利他的な行動が共感に支配されないようにすること、共感よりも理性にもとづいて利他を行うことが重要である、と言うのです。

実際にこの動きに賛同している若い人たちのなかには、就職先を選ぶときにも、共感よりも数字を重視する動きがあるといいます。仕事の内容そのものが利他的である

かどうかではなく、数字のうえで利他的な仕事、つまりいちばん儲かる、ゆえにいちばんたくさん寄付できる職に就くことを選ぶのです。

たとえば、シンガーの本のなかで、プリンストン大学哲学科を最優秀論文賞を受賞して卒業した若者の話が紹介されています。その若者は、利他心が非常に強かったのですが、オックスフォード大学の大学院に進む道を蹴って、ウォール街に就職したというのです。利他とは対極にも思える、生き馬の目を抜くような金融街に飛び込んで、株のトレーダーになったのです。

これまでの価値観であれば、他者のために働きたいと考える若者なら、慈善事業を行うNPOに就職したり、社会起業家になったり、あるいは研究者になったりするケースが多かったでしょう。

ところがこの若者は、限られた給料しかもらえない仕事に就いて、その1割を寄付するよりも、ウォール街でめいっぱいお金を稼いで、その給料の半分を寄付したほうが、人のために働くには効果的だと考えたのです。彼の目標は「貧困にあえぐ子どもたち100人の命を救う」だったのですが、それをわずか1、2年で成し遂げました。

## ▶背景にある「地球規模の危機」

共感が否定される背景にあるのは、私たちが現在、地球規模の危機にあるという認識です。

もし地球上のすべての人がアメリカ人の平均レベルの生活をしようとしたら、それを支えるのに必要な資源を確保するために、地球が5個必要だといわれています。そのくらい、現在の先進国の生活の仕方は、環境に与える負荷があまりにも大きい、「地球に見合っていない」生き方なのです。

にもかかわらず、私たちは生活の仕方を根本的に変えることができないでいる。毎年のようにやってくる豪雨、頻発する山火事、溶ける氷河……このままでは地球が持ちません。

環境破壊以外にも、感染症の問題や、先進国と発展途上国の格差の問題、人種や宗教をめぐる分断など、私たちは地球規模の問題を山のように抱えています。

人間がこうした地球規模の問題にうまく対処できない根本的な原因は、人間の想像

力の貧困さなのではないかと思えます。いや、想像力そのものは貧困ではないのですが、想像力ではとらえられないほどの量と複雑さで人々の活動が相互に、かつ未来にわたって影響しあう世界を、私たちはつくってしまった。

この地球規模の膨大で複雑な連関をあらわにしたのが、まさに今回の新型コロナウイルスでした。グローバル化によってあらゆるものがつながり、自分の行動が思いもよらないところに影響を与え、また影響を被る。地球規模のネットワークがあったからこそ、ウイルスはまたたくまに世界中に広がることができたのです。

増大する地球規模の連関と、それに追いつけない想像力。2020年の春、イタリアの小説家パオロ・ジョルダーノは、ロックダウン下のローマで、こう書きつけています。

ひとりひとりの行動の積み重ねが全体に与える効果は、ばらばらな効果の単なる合計とは別物だということだ。アクションを起こす僕らが大勢ならば、各自のふるまいは、理解の難しい抽象的な結果を地球規模でいくつも生む。感染症流行時に助け合いの精神がない者には、何よりもまず想像力が欠けているのだ。

（『コロナの時代の僕ら』）

このような想像しがたい膨大で複雑なネットワークを前にして、合理的利他主義や効果的利他主義が「理性」を強調するのは、ある意味では当然です。

つまり、地球規模の危機は、「共感」では救えないのです。なぜならそれは、想像もできないような膨大で複雑な連関によって起こっている危機であり、「近いところ」に関わろうとする共感では、とらえることができないからです。

だからこそ、人間は、理性によってこそ、地球を救うことができる。アタリという言葉を用いてみましょう。アタリは「人類のサバイバル」というかなり煽動的な言葉を使っていますが、同時に「理性」の重要性を主張しています。

消費者、労働者、市民として、寛容であることは自身の利益であると理解できるようになってこそ、他者の存在や、他者と分かち合うことに寛容になれる。こうしてわれわれは、他者、とくに次世代を助けることは、自分たちの大きな特権であると同時に、自分たちの利益になると強く感じるようになる。

そのような自覚があつてこそ、自由という理想から利他主義という理想への本格的な転換が始まる。こうしてこそ、憤懣<sup>ふんまん</sup>から激怒への逸脱が避けられる。

そしてこの転換こそが、人類のサバイバルのカギである。利他主義が押しつけられるのではこの転換は生じない。誰もが利他主義を理性的かつ情熱的に熱望し、利他主義が人々の心の奥底に根づかなければならない。

(『2030年ジャック・アタリの未来予測—不確実な世の中をサバイブせよ!』)

出典：『「利他」とは何か』〔著〕伊藤亜紗 集英社新書 2021) より抜粋した。出題に際して、原文の一部を改変している。原文(縦書き)を横書きとし、一部の漢数字を算用数字に書き改めた。

問 1 下線部の状況についてあなたが考える事例を挙げ、その状況を回避するにはどうすればよいか、200字以内で述べなさい。

問 2 共感にもとづく利他的行動を支持する社会の問題点について、250字以内で述べなさい。

問 3 医療における効果的利他主義について、賛成と反対の理由を各々200字以内で述べなさい。

問 4 「地球規模の危機」に対する人々の対処の現状とその原因について筆者はどのように考えているか、また、利他主義の観点から「地球規模の危機」を克服するためにはどうすればよいか、あなたの考えも含めて400字以内で述べなさい。